

Chapter 4 The Varied Role of Formative Research : Case studies from 30 years

30年間に渡るセサミストリートで行われたケーススタディを概観する

- ・ セサミは子どもたちの声をもとに番組制作をはじめ、教育関係者も加わりセサミ番組制作が始まった
子どもの声を取り入れる = 質の高い教育番組を作ることが出来る
- ・ 子ども達の熱中する各セグメントの番組の評価
 - ・ 子どもたちに理解が出来てインパクトのあるストーリーづくり
 - ・ 年齢にあっていて、子どもの関心が深い話をセサミの中から取り上げる
- ・ ここではとくに、生活に結びつく「科学、読み書き能力、人種、社会生活（死・結婚・妊娠・離婚）」に注目！

科学

子どもの好奇心にリンクさせる形での番組作り

科学は「研究所だけに限定されない」「誰でも科学を行える」等のコンセプトをもと実施した。

研究方法は観察、質問法、予想を立てるとしてすすめた。

事例 : 宇宙 Slimy goes to moon というセグメント

事前調査では 子ども 月の特徴分かっている、だが、宇宙飛行士の仕事、月へ行く方法、月は宇宙へあることは分からない。

3 - 5 歳児の子どもをグループにわけ、テストテープを見ての反応観察とその後のインタビュー調査を実施した。番組がどの程度理解されているのか、理解が低い場合高めるためにどういったトピックを加えればいいのかを調査。

Ex. Slimey goes to the moon

宇宙についての理解を高める: 3 - 5 歳児 lower income, middle income の家庭の子どもでぐるーぷをつくり、番組を見せたところ、事前に理解が低かった lower income の子どもにも宇宙への理解が高まった。

Ex. Body and Sense 子どもは体の機能は分かるが各パーツの機能は分からない。 番組: エルモと女の子が二人で体について考える。エルモが歌で女の子に体の機能を教えて上げる モペットと女の子(こども)の登場

読み書き能力

セサミでは、日常的に、文字や本、書き方、語彙などが、取り上げられている。

・ John Ganz Cooney 「“ テレビ番組 = 無駄な場所 ” を、小さな子供たちが学校に行く前に読み方を習得する、主要な場所に変えたい！」

研究と調査を通して、どんな特別な教養スキルを 3~5 歳児に教えるべきなのだろうか？

教育効果を高めるために、教育的な内容とメッセージを表現するには何が最良の方法か？

学習効率を最大化するためのLiteracyを表現する最適な方法とは。

Jは静止画 観察通じて子供たちはアニメーション効果のついた文字により関心を払った。

Jは画面上で発音されていた Jそのものの発音よりも、ナレーションのリズムパターンに興味を持ったように見えた。

改定前のテストでは、殆どの子供たちが番組視聴前はJを認識出来ていなかったが、改訂版を見た後は殆どの

子供たちがJを認識し分類できた。複数回番組を見た子に関しては特にその効果が見られた。

- a. 文字は目立つように、また動きをもって。
- b. 親しみにくいものは、親しみのあるものを使って。
- c. コーナー内の全ての活動は文字を強調するように。

例：日替わりに紹介される文字、“X”と“0”は挿入部分の1つまたは2つのコーナーに組み入れられる。(例：ストリートのシーンとシーンの間に見られる)。一話を見終わった後、53%の子供が“0”の文字を、47%の子供が“X”の文字を認識していた。(セサミストリートによる調査・1995年)。これは、他の3つの番組で取り上げた場合には20%以下の認識率であったことを考えると、決定的な違いを見出せる。

研究結果に基づくと、一話の中に入れる文字は1つだけにし、三部構成のコーナーを2回放映する、また可能であればストリートのシーンにまたがって放映するなどして、繰り返して強調することが効果的だといえる。

3年後、別の研究結果によって、ほかに効果的な要素があることがわかった。

- (a) 一話に取り上げられる構成部分の数、(b) ストーリのシーンと挿入部分の両方に文字が含まれること、(c) 強調するために、同一の文字を一場面の中で連続して使用すること、(d) 話の流れに基づいて使用すること、(e) 一話の中に含まれる文字は一つだけにすること。

総括すると、重要で、役に立ち、楽しいイラストが入った物語を通すことで、理解は促進される。ストリートのシーンは、本を読んだり、ものを書いたり、ポスターを読んだりといった子供たちの身近な問題を解決することに特化しており、その時に未就学児の文字に関する知識がアップしていた。番組の中で、親しみにくかった活字を親しみやすい形で表現し、活字の持つ機能的な価値を特に強調したことが、子供たちに文字の重要性を理解させるのに役立った。

人種

白人のアメリカ人、アフリカン系アメリカ人、アメリカンインディアン、ラテン系アメリカ人、アジア系アメリカ人の子どもたちを交えて、番組を制作。

白人のアメリカ人の子どもが、アフリカ系アメリカ人の家に招かれる番組制作
番組の後、人種の違う子友達にも好印象を持ったが、親はそうではなかった。
次回は、親に目立つ役割をさせる部分を取り入れる。

訪問の前後に子どもとおやとの会話を入れる。(研究者)

よい友達関係をつくり、たもつことの大切さを伝える

社会生活 (死・結婚・妊娠・離婚)

結婚・妊娠では、番組の大人キャラである Maria と Luis が結婚して、Gabi という娘をもうけるという話筋。各トピックの話から、番組作りへの活かすポイントを創出。

結論

セサミ：子どもたちの理解を深めるために多様な役割を果たしてきた。

：研究と生産が密接に結びつき、発展のある番組作りが出来た。